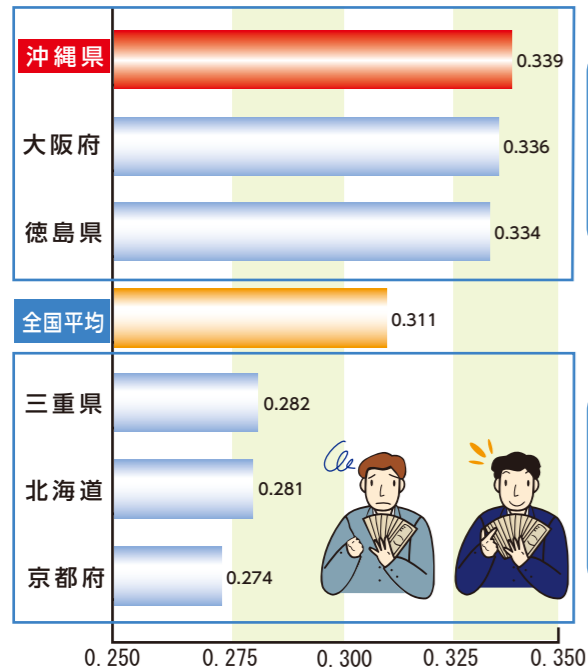


### 【沖縄県のジニ係数】

(2009年)



上位3都道府県

下位3都道府県

# 0.339

ジニ係数は格差の度合いを示す指数で、完全に平等なら0、対象地域の全収入が1人に集中すれば1となる。この値が高くなると、社会不安が高まると言われている。

総務省の全国消費実態調査によると、日本のジニ係数は、1999年には0.301だったが、2009年には0.311へと上昇した。

格差の拡大が招く社会のひずみを心配する向きもあるが、先進国で最も低いデンマークでは0.23、最も高いアメリカでは0.38。先進国の中で、日本は中程度の水準といえる。

2009年の沖縄県のジニ係数は0.339で、全国一の高さだった。これは、社会問題が表面化している一部のヨーロッパ諸国に近い。

ジニ係数が0.3前後であれば、社会に健全な競争をもたらされるとも言われる。ただし、貧困層の存在や、富の偏りの固定化があれば、この限りではないだろう。「健全」と「不健全」とを見極めた舵取りを求めたい。

(海邦総研事業支援部／鮫島智行)

### 【有訴者率】

(2010年)



下位5都道府県

上位5都道府県

# 274.9人/1千人あたり

通院はしていないが自分の体にケガや病気の自覚症状のある人を有訴者という。長寿の島と言われるだけあって健康な人が多いのか、沖縄の有訴者は少ない。

2010年国民生活基礎調査によると、沖縄県の有訴者率は1,000人あたり274.9人で、男女ともに全国1位の水準だ。県内男女別データでは男性242.9人、女性305.6人となっており、実は比較的長寿である女性の方に有訴者が多い。

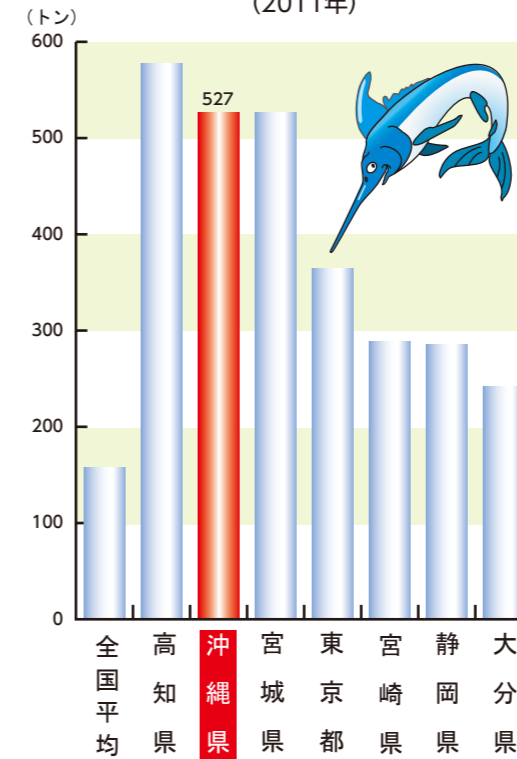
男性に有訴者が少ないのは、全国的に同様の傾向がみられるため、生理学的に男性の方が鈍感にできているということだろうか。「沖縄特有の大きな気質が要因」ということだけでは説明できないようだ。

どちらにせよ、自分の体はどこかが悪いと思うよりも、悪いところは無いと思い込んで生活している方が、精神衛生上では健康的といえるのかもしれない。

(海邦総研経営企画部／瀬川孫秀)

### 【クロカジキ類漁獲量】

(2011年)



# 527トン

マグロと並ぶお刺身の定番魚と言えば、カジキではないだろうか。カジキ類のうち沖縄県内で最も漁獲量が多いのはクロカジキ。

農林水産省「2009年漁業・養殖業生産統計年報」によると、沖縄県におけるクロカジキ類の漁獲量は527トン。これは国内の漁獲量4,119トンの約13%を占め、全国2位の水準だ。

インド太平洋の熱帯・亜熱帯海域に広く分布するクロカジキは、日本をはじめ米国や中米諸国、オーストラリアなどスポーツフィッシングにおいても主要な対象魚。

成魚は全長2.5m・体重100kgほどあり、まれに4m・500kgを超えるというから、釣り上げるのも一苦労だろう。スポーツとして楽しめるのもうなずける。

刺身も良いが、巨大な姿から、肉厚のステーキの食べごたえを想像してしまう。スポーツよりもやっぱり食欲？

(海邦総研経営企画部／新里治史)

### 【木造住宅率の増減】

(2002～11年)

都道府県別	木造住宅率の増減(ポイント)	2011年	2002年
1位 大阪府	13.0	79.9	66.9
2位 沖縄県	9.3	14.3	5.0
3位 徳島県	9.0	90.8	81.8
4位 和歌山県	8.9	82.3	73.4
5位 山口県	7.8	81.0	73.2
全国平均	2.6	83.2	80.7
43位 宮城県	-1.0	85.4	86.4
44位 岩手県	-1.1	93.8	95.0
45位 福島県	-1.4	87.4	88.8
46位 神奈川県	-1.7	80.6	82.3
47位 静岡県	-2.0	78.1	80.1

# 9.3ポイント

沖縄で木造住宅が増えている。そう聞くと県内ではまだ意外に感じる人が多いのかもしれない。

国土交通省「住宅着工統計」によると、新築一戸建て住宅に占める木造住宅の比率は、2002年から11年の9年間で沖縄は9.3ポイントも上昇している。

これは大阪に次ぐ全国第2位の勢い。要因は、古い住宅からの建替え、コンクリート住宅に比べ比較的安く建設できることや、ここ数年の大手木造住宅メーカーの進出により、その良さが広まってきたのではないだろうか。若い世代では、家を建てるなら木造、と決めているケースもあるようだ。

木の梁や木目を見た時、木の香りを感じた時、安らぎを感じる人は少なくないはず。

ストレス社会で生活する私たちに、木の家は安らぎを与えてくれる身近な存在だ。沖縄の住宅事情も大きく変わり始めている。

(海邦総研経営企画部／中山禎)